

# 数々の賞に輝いた 伝説の説経師たちが今 還ってくる!

芸術祭優秀賞  
(1975)

斎田喬戯曲賞  
(1975)

児童福祉文化賞  
(1975)

名古屋演劇ペンクラブ賞  
(2009)



づし王  
山本春美



あんじゅ  
平澤 愛



北澤知奈美



柳生啓介



小林祥子



黒河内雅子



寺田昌樹



中嶋宏太郎



玉浦有之祐



藤井偉策



渡会元之



松永 瑤



嵐 市太郎



松浦海之介



益城孝次郎



伊吹奈津実



石嶋隆生



一方、国分寺の聖に助けられたづし王は無事落ちのび、奥州五十四郡と丹後五郡の国司となる。聖の話で姉の死を知ったづし王は、悲しみと憤りに身を震わせ、さんしょう太夫一門を国分寺の庭に呼び寄せ……

「現代に生きる人びとの願いと中世の下層民衆の未来へ向けた生命のほとばしりをかさねあわせ、説経節・さんせう太夫が今に問いかける意味をさぐりたいのです。『帰らぬ命』はそのまま現代の問題です。おとぎ話の世界にとどまらず、大人の世代に通じる芝居にしたい。」

上演回数千回を超えて、そのテーマはさらに深く胸を打つことでしょう。

平将門の孫、奥州五十四郡の主、岩城判官正氏は、帝の勘気を被り大宰府に流人の身。あんじゅとづし王は、父を追って京へ向かう道中、人買いに騙され丹後の国のさんしょう太夫に売られ、同行の母とも生き別れてしまう。姉弟は、慣れぬ汐汲みと柴刈りに追い立てられ、むごい仕打ちに耐えかねたあんじゅは、づし王を都へと逃す。怒った太夫はあんじゅを火責め水責めにして殺してしまう。

へただいまこれより語り申す御物語り  
国を申さば丹後の国 金焼地藏の御本地を

原点から再創造

——溢れる民衆の願い——

「山椒太夫」は、文豪・森鷗外の小説で広く知られていますが、その原話は、中世紀に民衆のあいだに発生した語り物・説経節「さんせう太夫」です。

もともと中世的な神仏の霊験譚や因縁譚として語られた説経節「さんせう太夫」は、色濃い宗教性や呪術性におおわれていますが、その底には、しいたげられた下層民衆の自己解放への願いと夢がせつせつと流れています。

2024年 8月29日(木) 大阪日本橋・国立文楽劇場

《開演時間》 14時(開場13時30分)

18時30分(開場18時)

《ご観劇料金・税込》 一般 6,500円

《上演時間》 2時間40分(休憩含む)

■お問合せ 劇団前進座 関西事務所

TEL : 06(6212)9600 FAX : 06(6212)3939

前進座Webサイト<http://www.zenshinza.com/>

〒542-0077大阪市中央区道頓堀1丁目東5-7 劇団前進座道頓堀ビル

